

## 1. 新たなビジョン(素案)の説明

武内市長：

皆さまこんにちは、武内です。

多くの皆さんに力を貸していただきながら、今まで議論をしてきました。北九州市は本当に大きいまちです。92万人。世界には、北九州市より小さい国が40ぐらいあります。そして、面積も九州で最大。とてつもない大きさと、ポテンシャル、底力、可能性を秘めているのが北九州市の凄さです。

これまで、新しいビジョンを16年ぶりに作ろうということで、様々な議論の機会を持ってきました。7区で9回、約900人の方にタウンミーティングである「ミライ・トーク」に参加をしていただきました。これまで多くの方々、1万5千回の視聴がYouTube配信がありました。アンケートでは、約45,000人の方に答えていただきました。53人の有識者の方、76の団体の方、多くの方の声を聞いてまいりました。有識者会議も4回を開催し、様々な意見をいただきました。

「声を聞きたい」「声を聞かせてほしい」この思いで、前は22ヶ月、今回は9ヶ月という短いスピードで作業を進めてきました。そして気付いたことは、やはり多くの皆さんの、北九州への愛情が深いということ、そして老若男女が、それぞれに「北九州市がこうなってほしい」という思いを抱かれていること。こちらにありますように、シニアの方からは「北九州市はこういうまちだったんだよ」ということを伺い、若い方々からは「これからこんな風になってほしい」というビジョン、未来像を語っていただく。それが混ざり合いながら、立場や国籍、障がいのあるなし、そういったことを超えて様々な議論を進めてまいりました。「プライド」「理想」「未来」様々な思いを込めながら、新しいビジョンへの議論、プロセスが進んでまいりました。

今日は、そんなプロセスを経て11月22日に発表されました、この「北九州市基本構想・基本計画」いわゆる新ビジョンの素案について、そのポイントをお話させていただきます。

素案の中で提示をした北九州市の未来の都市像、それを言語化したものがこの三行に表されています。“つながりと情熱と技術で、” “「一歩先の価値観」を実現する” “グローバル挑戦都市・北九州市”です。

どういう力で、どこを目指して、そして、どのような姿勢で、北九州市を描いていくのか。2040年までという時間軸を定めながら、この言葉に凝縮をしています。もちろん20年だけではなくて、これから100年・200年ずっと続いていく、このまちのDNA・遺伝子をどうつくっていくのか。そこへの思いを言語化し、“目指すべき未来像”として素案に掲げさせていただいたものです。

その背景をお話しします。どんな力で、北九州市って「どこが強いんだろう」「どこが魅力なんだろう」これを多くの市民の皆さんと話してきました。そんな中で本当に不思議な感覚があります。多くの皆さんがお話をする言葉の中に、共通する言葉というのが出てきました。それがこの言葉です。

まず、「つながり」。他の土地からやってきた人は、商店街で買い物をすると、その商店街で買い物をするだけじゃなくて、ついでにお子さんに飴をプレゼントしてくれるとか、

単身赴任の方が角打ちや居酒屋に行って隣の方から声をかけられるとか、「人のつながり」これが私たちのまちの誇りだ、これを今後もずっと、しっかりと維持をして、孤立や孤独の問題が発生しないように、子育てや介護・医療の面でもしっかりと支え合う、そういうまちにしていきたいという、この「つながり」。

そして、「情熱」。今、北九州国際映画祭というのをやっていますが、北九州市でロケをすると3,000人近いエキストラの方が自然に集まってくる。全国で1番差し入れの量が多い。北九州市に来てロケをすると、体重が3kg 増えるのが問題だと映画関係者の方おっしゃっていましたがけれども、非常に情熱的に皆さんを支えてくださる。進出してくる企業の方も、「人の距離がものすごく近いね」ということを北九州の魅力として言ってくださいます。

そして、もう1つの力は「技術」です。これは言うまでもありません。北九州市の産業、ものづくりの力、こういったものを支えておられる多くの技術、そしてそれを支える職人の方、また働く皆さんの力。公害を環境技術に変えていく、こういう力。これを力にして北九州市の未来をつくっていきこう。ここが出発点です。

そして、どこを目指すのか。目指す先は“「一歩先の価値観」を実現するまち”という言葉に凝縮しています。今、時代は、世界は、どんどん変わっていきます。価値観も、世界観も、人生観も、社会観も、色々変わっていく中で、「一歩先の価値観」を常に追求するまちでありたい。その思いを込めています。だって、北九州市自体がそういう歴史を持ってきたんです。5市が合併をして1つのまちになる、これも世界で稀に見る5市合併を成し遂げたまち。公害という大きな問題を克服して、環境先進都市に生まれ変わろうとしたまち。そして、新しいグリーンのエネルギーを今作って世界中にそれを広げていきこうとしていくまち。私たちの中には、北九州市というまちには「一歩先の価値観」を、常に実現しようというDNA、新進の気性が宿っています。そこを常に実現をしていく。

今回の素案の中では、能力の開化、あらゆる多様性、障がいのあるなし、性別や国籍に関わらず、みんなが力を持って力を発揮できるまちにしようという価値観。そして、利他。人のため、あるいは誰かのために一肌脱ぐという、この北九州市のずっと持ち続けている価値観。これを大事にしていきこう。そして、持続可能です。言うまでもない、地球に優しく、地球を守り、次の世代にどうやって引き継いでいくのか、この北九州市こそが、物には命があるんだよと、世の中にはゴミっていうのはないんだよと、リサイクルをして、次の時代に向かって持続可能なまちをつくっていきこうという、価値観を体現してきました。この3つの価値観。まだまだ価値観は動いていくものです。これを体現していくまち、ここを目指そう。

そして、どんな姿勢でいくのか、これが“グローバル挑戦都市”。もう言うまでもありません。北九州市は八幡製鉄所、あの頃から日本を、アジアを引っ張るまちでした。そして、今は安川さんや、TOTOさんをはじめ、世界と戦うビッグビジネスが生まれています。そして、それを支える企業群があります。映画の話をするれば、今年だけでカンヌやトロントの映画祭にも出展をしている。そういう世界と対峙をしてくる、世界を見据えたまちです。そこに挑戦をし続ける姿勢、これを“グローバル挑戦都市”という言葉に込めています。

“つながりと情熱と技術で、「一歩先の価値観」を実現する グローバル挑戦都市・北九州市” これを目指すべき都市像として、提案をさせていただきます。

では、これをどうやって実現をしていくのか。3つの重点戦略を駆け足で見たいと思います。今回掲げた重点戦略。行政の計画というと大体「あれも、これも、どれもみんなやります」という形が多いですね。そして経済を頑張るのであれば文化や福祉はちょっと劣後するのかなとか、福祉を頑張るなら経済の方はと、あっちを立てれば、こっちが立たずということもあり得ます。ただ、今回の新たなビジョンで重視をしているのは、これらをぐるぐる回そうという発想です。

どうぐるぐる回すのか、しっかりと「稼げるまち」にしていく。元手を作っていく。しっかりと教育や文化や医療や福祉、これを支える「稼げるまち」。しっかりと稼いでいく。それを元手としながら「彩りあるまち」。色んな楽しみがある、ワクワクがある、まちが楽しい、そして色んな経験ができる、こういう「彩りあるまち」をつくっていこう。そして、そこで活力を得て「安らぐまち」。歳を重ねても、子育てをしても、何か人生の途上で困ることがあっても、しっかりと安らぐことのできるまち。これをつくっていこう。「稼げるまち」「彩りあるまち」「安らぐまち」。そして、安らぐことができれば、安心して働き、稼ぐことができる。この循環をぐるぐる回していこうということが1つのポイントです。その底辺にあるのは、やはり「人」です。人が営み、人が楽しみ、人がしっかりと安らぐことができる。強さと、優しさと、楽しさを持ったまちにしていこうというコンセプトです。

よりズームしていきます。まず、最初の起点となるのは「稼げるまち」です。「稼ぐ」は、なかなか生々しい言葉かもしれませんが、しかし、医療も福祉も文化も教育も、元手をしっかり作っていかねばなりません。今、北九州市が重点を置くべきことは「稼ぐ」です。これを見ていただきたい。縦軸に経済成長率、横軸に人口の増加率、過去10年間、全国20の政令指定都市、大都市の状況を示しています。この10年間、北九州市は左端。人口増加率では最下位。1番人口が減っている率が多いということ。経済成長率は、浜松市と並んでほぼ最下位。下から2番目。経済が成長していないということ。この状況をまず脱却する。経済成長すれば雇用が増える。雇用が増えれば人口が増える。人口が増えれば経済が成長する。当然のことです。この循環をもう1度作っていく。見ていただくと経済成長と人口の増加率というのは相関をしています。経済成長なければ人口増加なし、人口増加なければ経済成長なし。これは当然のことでもあります。

さあ、未来を考えていくためには、今現実を直視しなければいけません。この10年間の北九州市の状況、経済成長の伸び悩み、今下から2番目という話をしましたが、他の大都市と比べていくと、北九州市は経済成長が伸び悩んでいます。自ずから、土地の価値、地価も向上していません。福岡市は74.3%この10年間で上がっています。自ずから、賃金の伸びも極めて小さい、あるいはマイナスになってしまっている。この循環を早く抜け出して、しっかりと「稼げるまち」にしていかねばなりません。

それをどうやって実現をしていくのか、ポイントをお話しします。3つのステップで考えています。「知ってもらう」「始めてもらう」「定着してもらう」この3つのステップです。北九州市の魅力、北九州市が素晴らしい力を持っていることを知ってもらい、多くの人が行き交い、交流人口が増えていくという第1ステップ。そしてその魅力に惹きつけられるように、企業や人がやってきて新しいビジネスを始めてもらう。そしてそういった方々がずっと定着をしてもらう、このステップを踏んでいきます。

第1ステップのキーワード、「空港」そして「観光」「エンタメ」。北九州市に、もっともっと人の流れを、もっと物の流れを作っていく、流れを作るのが第1ステップです。北九州空港、3000mに滑走路が延長されることが決まりました。3000mに滑走路が延長すれば、大型ジャンボジェット機に荷物を満タンに積んで、北米やヨーロッパに飛んでいくことができるんです。大きなチャンスがやってくる、もっと空港へのアクセスや交通手段を良くすること、空港島をもっと魅力的にすること、そして路線を増やすこと、こういったことを組み合わせながら、空港の力を目いっぱい使っていく。

そして同時に、来た人に喜んでもらう。北九州市には文化も自然も歴史もあります。福岡市にはないお城もあります。美味しい食もあります。お刺身も美味しいです。色んな魅力があります。観光地としてももっともっと、世界遺産も2つありますからね。夜景もあります。もっともっと、色んな可能性がある。その観光の拠点、今はそれが点と点で、ややバラバラになっている面がある。それをしっかり線としてつないでいく。もっと動きやすくしていく。こういうことができれば、門司も小倉も八幡も若松も戸畑も、もう若松の北海岸なんて、本当に夕日も美しいし、食べ物も美味しいし、まだまだ色んな可能性があります。

そして、エンタメです。もちろん漫画やアニメもあります。今、映画もありますし、エンタメの力でもっと人を惹きつける力がある。そして、エンタメを目指す若い人たちが、アジアと繋がり、そして企業や人材、こういった方がエンタメ産業、エンタメを作るためにやってくる。これが第1ステップ。

そして、同時並行も含めて第2ステップです。産業を強くする。ここは「半導体・電気自動車」など、未来の産業に挑戦します。今、シリコンアイランドとして、熊本県を中心に半導体企業がじゃんじゃん来ています。どんどん熊本県は今、盛り上がっていますね。北九州市にも、実は半導体関連企業が100近くあります。今年に入って私が就任してからも、半導体デザインセンターなどの立地が進んでいます。また、一昨日だったかの記者会見では、蓄電池。これを開発する拠点・企業が立地することを発表させていただきました。未来の産業の挑戦の素地が北九州にはたくさんあります。そしてスタートアップ。今、福岡市とも組んで、どんどん新しい企業を起こしていくという取組を加速しています。ただ、スタートアップ、新しいビジネスや新しい企業をつくっていくというのは、若い方々が来られるのはもちろんウェルカム、歓迎しますが、それだけでなく、例えば、北九州市のものづくりの企業で腕を磨いてきたベテランの方、このプロの方々と、若い方々がマッチングして新しいビジネスをつくる。あるいはシニアのベンチャーを作っていく、こんなことも北九州市らしくできるんじゃないでしょうか。

そして、何より市内の企業が、もっとパワーアップしていくという素地もたくさんあります。北九州市にはものづくりの技術を使って、例えば、医療機器の分野に変わっていかうとか、コロナのところで空気清浄の技術をつくっていかうとか、その技術力を生かして、時代に合わせて変わっていく企業がどんどん出てきていますよね。これからデジタルの力、デザインの花、グリーンエネルギーの花、こういったものを生かしながら、市内の企業の力を、もっと次の時代に合う形で発展をさせていく。この素地は十分、北九州市にはあります。そうして企業に、あるいは新しい方々に、どんどん活躍をしていただいて、定着をしていただく。

北九州市のこれからは、大きな看板は「グリーン」と「テクノロジー」。洋上風力発電も着工しました。そして、「グリーン」。環境に優しいエネルギーを作る一大拠点として、北九州市は今、名を轟かせています。「テクノロジー」は言うまでもありません。アジアに1番近いテクノロジー都市としての力を持っている北九州市の力。そして地球に優しい、人に優しい、「ウォーカブル」、歩いて楽しめるまち。今、世界中はそういう道に進んでおりますが、北九州市も歩いて楽しい、そして歩いて人と行き交うことのできる、ウォーカブルなまち、これも1つの切り口だと思います。

また、サーキュラーエコノミー、これもリサイクルであったり、色んなものを回転させながら、北九州市の経済をつくっていく。また、これからはシニアエコノミー。高齢者の方々こそ長所である、武器である、大きな力である。高齢者の方々が、その知恵を生かして、ボランティアもそうですけど、色んなそんな形で、企業のために知恵を授けてくださる。若い人と組んで新しいビジネスをスタートする、あるいは高齢者の方々、シニアの方々も楽しめるような、例えば、空き家を活用した、小さなレストランで、洒落た器の中に、健康に良い素材で作られた料理が提供できるレストランを作るなんてこともあるでしょうし、色んな健康、平尾台のトレイルをしながら、また、色んな産業とかお城とか、そういったところを学びながら、大人の本当に成熟したビジネス、あるいは観光というのもできるかもしれません。そうした切り口。

今、例示でいくつかお話をしましたが、こういったステップで北九州市をさらに「稼げるまち」にしていく。そして稼いだ元手で、しっかりと一致団結をしてさらに進んでいく。行政だけがやるわけではありません。民間企業、アカデミア、大学、学校、コミュニティ、市民の皆さんが一体となって、この道を進んでいく。

そして、「稼げる」という意味からいうと、数値目標を掲げようということを提案しています。見てください、北九州市と福岡市の GDP・経済力の差を。推移を見てみますと、1980年頃は、北九州市と福岡市大体一緒でした。それがどんどん差がついて、今、福岡市は経済規模が倍ぐらいになってしまっています。北九州市は常に GDP 4兆円という壁に跳ね返されてきました。なかなか4兆円が超えられない。そこで、今後10年以内に、今の GDP 3.6兆円を4兆円超えるところまで持っていく。これを数値目標として掲げています。

この稼いだ元手で「彩りあるまち」です。さあ、皆さん、「彩りあるまち」というところで、どういうワクワクする楽しいまちとして、どんなことをイメージされるでしょうか。まちなかでいつもコンサートが開かれているとか、まちの隅で色々なアーティストが活動しているとか、あるいは少し歳を重ねられた方がその腕を鳴らして美味しいお弁当や料理を作ってくれるレストランがあるとか、新しい何か技術やエンタメがどんどん入ってくるまちとか、色んなことがあると思います。色んな人が集まっているのが北九州市の力です。多様性こそ北九州市の力です。それを生かしながら、ワクワクするまちの要素、これをどんどん埋め込んでいく。「彩りあるまち」これをつくっていく。

そして「安らぐまち」です。しっかりと稼いだ元手、そして彩りの中で培った英気でみんなを支え合う、地域で市民の皆さんがそれぞれ支え合っていく、医療や介護、子育て様々な局面で、多くの人が声を掛け合って、誰1人取り残さない、そういうまちを作っていく。

「暮らしの保健室」というのが東京都新宿区にありまして、団地の1階の空きスペースに色んな地域のボランティアの方が集まってきます。元看護師の方、あるいは人生経験豊かな方、近所の大学生の方、みんなが集まって、どんな質問、どんな悩みでも持ってきてい

いよという「暮らしの保健室」があります。例えば、電球がちょっと届かなくてどうやったら替えられますかとか、薬を2錠のところを4錠飲んじゃったけどこれ大丈夫かなとか、そういうモヤモヤした不安でも良いです。そういうことをみんなで持ち寄って、誰かが分かる、誰か知っている人がいる。そして、ちょっと体の大きい人がいる。そういう人たちがみんなで団地の中で支えあう、こういう「暮らしの保健室」というような取組も行われています。北九州市こそ、こういう人と人の支え合い、そして一肌脱ぐというところ強いですよ。やはり地域で、みんなで支え合う「安らぐまち」、これをつくっていく。そして「安らぐまち」をつくっていくことによって、安心して働き、そして稼ぐことのできるまちにする。この循環を作っていこうという考えです。

そして、こういったものはポイントだけ話すと抽象的な話になってしまいますけれども、今回のプラン、ビジョンの中では、行政としてはかなり思い切った数値目標を掲げさせていただいています。大体、行政というのは、ストレッチする目標を掲げるのは、なかなか勇気があることなのですが、ただ、身体も一緒です。ストレッチして、一生懸命行こうとするから少しずつ変わってくるものです。

「ストレッチゴール」。思い切った野心的な目標として掲げているものの一例を挙げます。ここでは「地価」「合計特殊出生率」、それから「健康寿命」「社会動態」を掲げておりますけれども、ここに1つ1つ、様々な13個の指標を掲げております。健康になって、しっかり稼いで、土地の価値を上げて、そして人口を増やしていく。まずは人の流入を増やしていこうということ。1,000人の人口増、社会増をまず実現をしていって、そこから100万人の復活に向かって挑戦をしていく道筋をつくっていく。この野心的な内容も、今回は入れさせていただいています。

さあ、これからまだまだ議論は続きます。多くの方に今まで議論に参加をしていただきました。まちは生き物です。皆さんがこれからまちをどうしていくのか、市民の私たちがどうしていくのか、そして次の世代にどう渡していくのか、「あとからあとからから続いてくる、あの可愛い者たちのために、みなそれぞれ自分にできる何かをしてゆくのだ」。これは私の好きな坂村真民という方の詩の一節なのですけれども、やはり次の世代、続いてくる方々のために、どうやってまちをつくっていくのか、引き継いでいくのか、皆さんで考えていく。そういう時間にしていきたいと思います。

そして最後に、この新ビジョンの表書きのところに書かれている言葉をご紹介しますと思います。まちはまだまだこれから生きて、そして命を燃やしていきます。私たちのスタッフ、市役所のスタッフ、そして関係する皆さんのお力で、言葉を紡いでその思いを最初の部分に掲げてあります。それをご紹介しますと思います。

“ひとの数だけ、スポットライトがある。  
だれもが主人公になって、イキイキと  
自分の人生をもっと好きになって進んでいく。

一人ひとりに宿る力を、  
もっと支え、挑戦を後押しできる都市へ。  
積み重ねてきた歴史を、  
脈々と継承し、新しい価値を生みだせる未来へ。

多様な個性がまざりあい、つながりあうからこそ  
生みだされる価値は、日本のみならず世界へと大きく広がり、  
だれもが豊かで安らげる未来をつくっていきます。

つながりと情熱と技術で、  
「一歩先の価値観」を実現するグローバル挑戦都市へ。  
さあ、愛さずにはいられない未来を、北九州市から。”

ありがとうございました。

## 2. パネルトーク

司会：

ここからは、「新たなビジョン」の「素案」を深掘していく「パネルトーク」に移らせていただきます。新ビジョンの検討にあたりましては、地元有識者の方々に専門家の視点からご意見をいただく、「新ビジョン検討会議」を重ねてまいりました。本日は、その会議にご参加いただいた有識者のうち、3名の方にパネリストとしてご登壇いただきます。

まず、九州工業大学学長・三谷康範さまです。2003年に九州工業大学 工学部の教授に就任されまして、2018年に副学長、2022年からは学長を務められております。

続きまして、北九州市立大学副学長、地域戦略研究所所長・内田晃さまです。財団法人北九州都市協会 専任研究員などを経て、2023年からは副学長を務められております。

続いて、産業医科大学医学部准教授・永田昌子さまです。民間企業での産業医を経て、2022年からは医学部両立支援科学 准教授を務められていらっしゃいます。

以上、3名の皆様をお迎えして、パネルトークを行ってまいります。このパネルトークには、引き続き、武内市長にもご参加いただきます。また、パネルトークの進行は、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社、副主任研究員でいらっしゃいます丸川さんをお願いします。

進行（丸川氏）：

それではパネルトークをはじめて参りたいと思います。進行を務めます、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの丸川と申します。よろしく願いいたします。

このパネルトークでは、先ほど市長からもご説明がありました、3つの重点戦略、「稼げるまち」「彩りあるまち」「安らぐまち」のポイントをテーマに、有識者の方々にお話を伺っていこうと思います。会場の皆様には入口にてお配りした封筒の中にあります、新たなビジョンの概要版資料をご覧くださいながらお話を聞いていただければと思います。

それではまず、「稼げるまち」の実現をテーマといたします。有識者の方のお話に入る前に、「稼げるまち」の実現について、概要を簡単にご説明します。

「稼げるまち」の実現の戦略としては、大きく3つの項目があります。まず、陸海空のネットワーク構築や近隣市町との連携など、「稼げる基盤」づくり、若者や女性をはじめとした多様な人材の就業や起業を後押しする「稼げる人」の育成、企業誘致に加えて、民間主導による企業の魅力や生産性向上、新たなビジネス展開など、「稼げる産業」の創出していく。これらの取組を通じて、「人も企業も潜在力を開花できるまち」を目指していきます。

それでは、まずお一人目、三谷さま、「稼げるまち」の実現に向けたポイントについて、お話をお願いします。

三谷氏：

九州工業大学学長の三谷でございます。九州工業大学は、戸畑区に本部を持つ国立大学でございます。この観点から、つながり・情熱・技術、すべてに関して、色々と貢献させていただける話があるのではないかと考えております。今日は、その3つを観点に置きますが、我々の立場からこういった形が実現可能かをお話しさせていただければと思います。

まず、「稼げる」という話ですが、皆さんは政府が色々と話をする中で、最近スタートアップを大学から起こそうという話をかなり聞いているかと思えます。我々も例外ではなく、大学の中にスタートアップを生みだせるような素地を作っていこうということで、政府からもかなりお金をいただきながら進めていっているところでございます。

最近の海外の大学では、学内にリサーチパークを作り、そこに学生も、教員も、地元の企業も、地元以外の企業もみんなが集まってきます。つながりと情熱が集まってくる中に、大学の技術を入れてこれを発展を加速させていこうというのが一つの考え方でございます。

そういう意味で、北九州は非常に面白い土地になります。一つの例として、我々も大きな恩恵を受けていますが、規制緩和の国家戦略特区として指定されていまして、我々が技術的に可能けれども、制度的に出来ないようなことに対してサポートをいただいています。問題解決に向けて並走していただけるような素地が整っております。

また、我々もパッションを持った学生がたくさんおります。北九州には色々な問題があると先ほどから出ていますが、例えば高齢化の問題であるとか、中小企業においてDXが中々進まないという話がありますが、そういうところで学生たちが動いて貢献してくれています。

そういったところから、スタートアップ設立のような話が生まれてきている現状がございまして、それを見て外の方々も面白い土地だということで入ってきてくれています。我々も一緒になって、そういった活動を掘り起こしているところです。このようなことが好循環し始めると、外の方も増えるという意味で、人口も増えていき、それで企業が儲かりはじめると、稼げるまちにかなり貢献できるのではないかと考えています。好循環をいかにつくっていくかということで、1つの起点となってくるのではないかと考えております。

それともう1つ、我々は教育機関ですので、学生にとって非常に大切なのは、世の中の企業の方を含めて、いろんなプレイヤーを間近に見て、技術を学んで、経営を学んで、色々なことを学ばせていただいております。そういった形で、一緒になって好循環を生みだしていくというキーワードが大切なのではないかと考えています。

進行（丸川氏）：

ありがとうございます。技術人材の育成が大事で、そこに大学の果たせる役割もあるということで、今日は、若い高校生の方々もたくさんいらっしゃって、この皆さんが北九州を支えていく人材なのだと感じております。

続いて、お二人目、内田さまよりお願いします。

内田氏：

皆様こんにちは。北九州市立大学の内田でございます。私は、本学に2009年に新しくできた、地域創生学群という学部で教員をしております。地域課題の解決のために、地域の皆さんと一緒に、学生たちが課題解決に取り組んでいこうということをやって、現場で教育をしているという、新しい学部です。

今回の「稼げる」「彩りある」「安らぐ」のすべてのテーマに、恐らく私たちの地域創生学群の学生が関わっているのではないかと感じているところです。今日は、高校生の皆さんもたくさん来られているので、是非うちの地域創生学群に来ていただいて、北九州の課題解決のために、一緒に地域の人達と汗水かいていただければと思っております。「地域創生学群」で検索をしてください。

私は都市計画が専門ですので、私の専門の視点から少しお話をさせていただきます。この「稼げるまち」の実現の一番初めに、陸海空のネットワークの構築という言葉が書かれています。道路や港湾、鉄道、空港といったものになるわけですが、これらは人を運ぶだけにあるわけではなく、物を運ぶ物流が非常に重要です。高校生の皆さんも、普段からコンビニに行ったりして物を買っていると思います。携帯電話ももちろんその部品はいろんな形で運ばれて製品化されているということで、北九州は先ほどからもありましたように、ものづくりのまちです。産業があっても、その製品を運ぶネットワークが弱ければ、十分に威力を発揮できないのではないかと考えます。

例えば、いま2本ある本州と九州を結ぶトンネル、橋、鉄道を入れれば3本、4本になりますが、これらが1つでも災害でストップすれば大混乱に陥ることになります。それで今、第二関門橋をかけようという計画があります。このような人だけではなく、物を運ぶネットワークを構築することが、今の北九州に求められているのではないかと思っております。

進行（丸川氏）：

ありがとうございます。人だけではなく、物を運ぶネットワークが、稼げるまちのポイントになるのではないかと、というお話だったかと思えます。

それではお待たせしました。永田さま、お願いします。

永田氏：

皆さんこんにちは。産業医科大学の永田です。私は、企業の健康管理や、病気を持った人で働きたい人が、より良く働けるようにという支援を日々行っています。

私はこの「稼げるまち」の実現というところで、今日高校生の方がたくさん来ていただいているのですが、こういった高校生の方に選ばれる企業が増えて欲しいなと思っています。

その1つとして、産業医大も中心に関わっております、健康経営についてご紹介をしたいと思います。従業員の健康管理を、コストとして捉えるのではなく、従業員の健康に投資をして、そして生き生きと働いて、その方々が生産性を上げ、企業の業績を上げていこうという取組になります。健康経営のトップランナーである中小企業の経営者の方にインタビューをして、健康経営に効果はあるかときくと、採用がしやすくなった、ということが一番に挙げられます。従業員自身が大事にしてもらっている感覚があると、うちの会社は良いよという口コミで、採用がし易くなるということでした。

今、北九州で力のある企業の多くも、人手不足と聞いておりますので、健康経営の取組などを通じて、魅力ある、若者から選ばれる企業となるお手伝いを、地域でもできればと思います。

進行（丸川氏）：

ありがとうございます。高校生の皆さんも、健康に生き生きと働くというのが、とても良いと思われる方もいらっしゃるのではないかと思います。

ここまでのところで、市長から話を伺います。

武内市長：

会場内を見させていただくと、老若男女バラエティーに富んでいると思うのですが、やはりこの総合力が北九州市のこれから大事な要素になるのではないかと思います。経験を積んだシニアの方、技を持っている、人生経験を持っている方、色んな方が若い方々にいかにその知恵を授けながら、サポートしながら、チャレンジをして、それがたとえうまく行かなくても、しっかりバックアップをしてあげる、そういった組合せは非常に北九州市の大きな魅力になるのではないかと思います。

また、北九州市の持っているものをちゃんと使えば絶対に稼げるようになると私は確信をしているので、例えば、空港であっても、インフラであってもそうですし、観光地もたくさんありますし、中小企業の技術力もあります。そういったものを、しっかりと使っていった、つないでいくことによって、もっと人もお金も回っていく形になっていくのではないかと確信しています。

若い人を連れてくるという意味においては、福岡市みたいなやり方とは異なる道、北九州Way、北九州の道に行くのが大事だと考えています。東京や福岡市など、デジタルやキラキラ、ピカピカした感じとは違う、グリーンのような観点や、シニアの方とのコラボレーションも大事です。

また、スタートアップをやられる若い方に聞くと、北九州市は課題がたくさんある、解きたくなるような課題がたくさんあるのがすごく魅力だということで、すなわち日本の先を行っている、色々な意味での課題にぶつかっていることが、若い方々にとってそれを解決して新しいことを起こしたいという気持ちにもつながると思います。また、しっかりとした技や

経験を持つ先輩方がそれを受け止める力がある、高齢化、シニアこそを長所にしながら、若い方々をサポートしていくことをやっていく、そういった視点が大事じゃないかと思います。

進行（丸川氏）：

ありがとうございました。続いて、2つめの重点戦略である、「彩りあるまち」の実現をテーマとします。

「彩りあるまち」の実現の戦略としては、まず、民間投資を喚起しながら、魅力的な街並みや生活環境など、「彩りのある空間」の整備、次に、文化芸術・スポーツの振興、観光地の魅力向上など、「彩りある時」を体感できる環境の整備、さらに、教育環境を充実し、子どもたちの将来の可能性を引き出すことで「彩りある人」を育むことです。こうした取組により、輝く個性と楽しさがあふれるまちを目指していきます。

それでは、まずお一人目、内田さま、「彩りあるまち」の実現に向けたポイントについて、お話をお願いします。

内田氏：

私は10年ほど前に、ドイツの大学に1年間ほど留学をさせていただきました。その時に気付いたことが、住んでいた町が人口7万人の、この辺りでいうと、行橋市くらいの人口のまちだったのですが、平日昼間の中心街地にもものすごく人が居るんです。賑わいが半端ないわけです。日本の地方都市の10万人クラスの都市だと、どこでも今、シャッター街になっています。何が違うのかと他のまちにも行って見て、色々してみると、どこも共通しているのが、歩きやすい、歩きたくなる空間が設けられています。そしてそこに、魅力のあるカフェやお店が立ち並んでいる。アーケードは歩きやすいかもしれないですが、アーケードがあるだけではだめで、やはり歩きたくなる、そこに滞在したくなるまちがないとダメなんじゃないかと思います。

そこにセットでやはり公共交通も非常に大事で、今日は高校生たちもたくさんいらっやっていますが、恐らくアウトレットやショッピングセンターに行っているのではないのでしょうか。近くの商店街はどうでしょうか。あまり行っていないのではないかと思います。そういうまちになってほしいなと思います。中高生は車を運転しませんし、できません。ですからどうしても自転車や、公共交通を使って行くことになります。そういった中高生が行きたくなるような、ウォークブルな都市空間を形成することが、非常に重要なのではないかと考えております。

進行（丸川氏）：

ありがとうございます。高校生の皆さんも、ぜひまちを歩いてみていただければと思います。続いて、永田さま、お願いします。

永田氏：

もしかすると、「彩りあるまち」からは少しずれてしまっているのかもしれませんが、私は消費の変化に対応したまちになって欲しいなと思います。というのも、我々が若い頃は、やはりまちの中心部に行くと娯楽があるため、そこに集まっていたのですが、そこで洋服を買ったり、何かを買ったりということをしていたわけですが、スマホの登場で、娯楽も消費もスマホで自分の家で完結する時代になったことで、まちの消費がやはり少なくなってしまうんじゃないかと思います。ですので、市民の消費が市で循環するためには、やはり工夫が必要なのだろうなと思います。是非、市民の今の消費行動にあった形で、市民の消費が市に落ちていく、それによって「彩りあるまち」が実現するのではないかと考えております。

進行（丸川氏）：

今の消費の在り方ではない、新しい価値観という話も冒頭ありましたが、どういう消費をするのかに合わせて変わっていくことも、求められているのかなと思います。

続いて、三谷さまお願いします。

三谷氏：

「彩り」という言葉の中に、私がキーワードとしてあげたいのが、多様性、ダイバーシティの話だと思っています。ダイバーシティというのはいろいろありますが、男女、性別の問題もあるし、外国人、多様な文化を受け入れるという話まであります。北九州は元々色々な方々が来て、形作られているところです。外国人や外から来られた企業の方など、そういう「彩り」を添えていくと、今まで気付かなかったところにかなり気付くようになってまいります。

我々も留学生を集めて、留学生の「友好の夕べ」というのを開いて、全部で300名程いるうちの、昨日は30か国100名超に集ってもらいました。それだけ集まってくれるだけで、本当に面白い空間が出来上がってきて、例えば、英語の勉強をしようと、彼らと話をすると自然と英語の勉強にもなります。また、違う背景、文化を持った彼らと話をすると、我々の発想にはない、全く違う彼らの発想で話をしてくれて、いろいろな気付きが出てまいります。普段、我々が当たり前だと思っていたことが、当たり前じゃないことに気付いて、これは何とかしなければという話が出てくると思います。

先ほど内田先生からもあったように、ドイツに行けば違う、アメリカに行くと違う、それが何でだろうと考えるのがまず第一歩かなと思っています。我々はこの多様性を大事にして、その交わりから多様な文化を受け入れるような「彩りあるまち」を是非とも作っていきたいと思っています。

進行（丸川氏）：

ありがとうございます。それでは、武内市長から、「彩りあるまち」について、ここまでの話を伺って、お話をお願いします。

武内市長：

「彩りあるまち」というのは、色々な切り口があると思うのですが、「面白い」というのが随所にあるというのが大事なポイントの1つかなと思います。三谷学長からあったように、今までにない発想を若い人たちが紡ぎ出してくれるのがまちの面白さで、これは若い人達だけではなく、色んな世代の方、色んな国籍の方、色んな立場の方が、何か面白いことをやってみる。

北九州の場合、縦糸と横糸があるとするならば、横糸としては各地域に本当にバラエティーに富んだところがあります。ブラタモリでそれを全国に発信できましたが、縦糸としても、歴史があります。未来を志向しているところから古い歴史も、お城も、近代遺産も色んなものがあります。その掛け合わせで、色々な面白いことができると思います。例えば、意外な組み合わせで言うと、レストランと洋服屋さんが一緒になっている店舗なども出てきたりしていますし、関門海峡を見降ろせる空家がアトリエになっていたり、あるものとあるものを掛け合わせることによって、驚きがあり、こういう使い方があったんだと、面白いと思えるようなものをみんなで歓迎していく。それはちょっと使い方がおかしいとか、否定的なことは言わずに、やってみよう、面白いとみんなで後押しするような切り口が、楽しい、わくわくするまちとなり、そういう流れを作っていきたいと思います。

進行（丸川氏）：

ありがとうございます。続いて、最後のテーマである「安らぐまち」の実現に移りたいと思います。

「安らぐまち」の実現の戦略としましては、まず、防災・防犯、社会インフラの維持など、「生活基盤の安心」を支えることをベースに質の高い介護・医療などのサービスが提供され、多様性を認め合いながら地域のつながりを感じることができる「暮らしの安心」を支えていきます。また、希望する人が安心して出産し、育児や子どもの成長を社会全体で支える「子どもや子育ての安心」を感じることができる環境を整備していきます。こうした取組により「誰もがつながるアットホームなまち」を目指していきます。

それでは、まずお一人目、永田さま、「安らぐまち」の実現に向けたポイントについて、お話をお願いします。

永田氏：

今回、市長は健康寿命の延伸を目標に掲げられていました。健康寿命について少し触れたいなと思います。

健康寿命というのは、日常生活に制限のない期間として算出されます。当然、1日の歩数を増やしていくなど、健康増進活動も重要なのですが、日常生活の制限というのは、健康状態だけではなく、買物や病院に行き易いといった環境の要因からも影響を受けると考えられます。よって、健康寿命はもしかすると環境の要素もあると考え、北九州は高齢者の方の外出のしやすさを、大きな北九州で達成するのは困難かもしれませんが、そういったことで健康寿命を延伸していくこともできるのではないかと思います。是非、自動運転とか新しい

ことに取組んでいただければと思います。

進行（丸川氏）：

ありがとうございます。買物がし易いとか病院へ行き易いといった環境を整備する、先ほど、ウォーカブルといった話もありましたが、やはり外に出て何かをしたくなるような環境をつくっていくということも、大事なのではないかと思います。

続いてお二人目、三谷さまお願いします。

三谷氏：

「安らぐまち」ということでお話をいただいておりますが、少し離れた観点から話を始めます。

最後に、リカレント教育、学び直しということで、この話は皆さんも聞いたことがあるかと思います。高校生の皆さんも今、必死に頑張って大学受験に向けて勉強されているかと思いますが、実は人生はいつまでたっても、やっぱりいろんなことを学んでいく姿勢が、最後は安心安全につながっていきます。

例えば、DX や情報教育など、日々新しい情報がたくさん入ってきますが、世の中に出てから、ここを知ればもっと面白いなというところは、興味を持っていただき、勉強していただければかなり生活が豊かになりますし、そこからキャリアアップを目指すこともできます。もう1つ面白いのが、実はDX、情報の知識をつけていくと、例えば介護や子育てのために在宅しなくてはいけない場合も、仕事につながっていくということがあります。そういうところを身につけていく気持ちを持ちながら日々を過ごしていると、だんだんと豊かな生活が目に見えてきます。

もう1つ、シニアの生活の豊かさの問題ですが、シニアの方もすでに多くの技術を持っておられると思いますが、リタイアされる方がさらに別の観点で学び直しをしていただくと、可能性がさらにかなり広がってまいります。そういった環境づくりを目指したいなと思っております。

最後に宣伝になりますが、我々も学び直しができるような環境を、大学の中から外に打ち出していこうと思っておりますので、色んなことが提供できればと考えております。よろしくお願いします。

進行（丸川氏）：

今、高校生達がたくさんいて、学んでいる最中だと思いますけれど、それ以外の皆さんも、学べるんだよ、そういうところが大学として門戸があって、リカレントは日々新しくしていくというようなことだと思うのですけれども、そういうようなことを皆さんで学び合ってくださいというお話だったかと思います。ありがとうございます。

続いて、内田さまお願いします。

内田氏：

「安らぐまち」の実現というところで、最初に、生活基盤の安心を支えるということ。日本は10年に1回は大きな災害に見舞われており、いつどこで災害が起きてもおかしくないということで、北九州市は災害が少ないまちではあるのですけれども、そうは言いつつ、やはり災害に強いまちというのはつくっていかないといけない。

また、いざ災害が起きた時にどのように対応していくかということが、今求められているのではないかと思います。町内会の加入率が低下してきているという課題があって、コミュニティの希薄化、そういうものが懸念されているわけですが、こういった災害に強い、災害が起きた時にどう対応できるかというのは、やはり市民1人1人の「絆」とか、先ほどから「つながり」というキーワードが出ていますけれども、そういった市民の「絆」「つながり」が、災害に対応する力を生み出すのではないかと考えています。

また、ここに「犯罪のないまちづくり」というのが掲げられていますけれども、犯罪がないためには、犯罪を少なくするには、どうしたらいいか。これは先ほどの「歩く」ということにもつながるのですけれど、人の目が外にあるということは犯罪を抑止する効果があると言われていて、この「彩りあるまち」、ウォーカブルの話をしましたけれど、これは別に小倉都心、黒崎副都心だけでなく、どこの地域でも、どこの住宅地でも目指していかないといけない視点なのかなと、そうすることによって犯罪が少なくなる。そういう強いまちというのは、ひいては市民みんなが「安らぐまち」になるのではないかと考えています。以上です。

進行（丸川氏）：

ありがとうございます。「つながる」ということが防災や、犯罪の抑止につながっていくというような視点の話だったかと思います。大変ためになりました。ありがとうございます。それでは市長お願いします。

武内市長：

「学び」「つながり」全て大事なポイントだと思います。人の幸せは何で決まるのかという研究が海外であって、人の幸せを決める要素というのがいくつかあり、一番が「健康」。それぞれのレベルの健康があるでしょう。2つ目が「人間関係」。人とのつながりです。そして3つ目が「自己選択」で、選択ができる、色んなチョイスがあるということ。この3つが幸せに結構大きな影響を与えているというデータがあります。

そのような意味で、安らぎを持ってこのまちで年を重ねていく、あるいはいろんな行動をしていくことが幸せだ、そして、心安らぐことができるというところ、これらの要素というのを増やしていかないといけません。その中ではやはり地域でのつながり、これは「ソーシャルキャピタル」という言い方もします。色んな制度があります。医療も、介護も、年金も、子育ても、色んな制度を、国が作ったり、自治体で作ったりしますが、その隙間がボコボコ生まれるし、世の中変わっていきます。そういった中で、やはり地域の中でお互いに見ていく、そのインフォーマルな繋がりというのを作っていくことが、すごく大事。

もちろん、教育の中でも不登校の問題、いじめの問題なども含めて、地域で一生懸命、南区などでもやられている活動が非常に話題になったりしますけれども、そういった形で、人それぞれのお互いの存在を、老若男女、国籍、障害のあるなしを問わず、お互いにリスペクトする、あるいはその存在自体を祝福するという、そのような観点でやっていく必要があります。

何しろ北九州市は、小倉1つとっても、紫川でハゼが釣れます。それだけの自然と、人情があるということ自体、安らぎが持てるまちのポテンシャルが強いと思うので、そこは強化して、磨いていきたいと思います。

進行（丸川氏）：

「安らぐまち」ですね。皆さんどうやったら「安らぐまち」ができるのかという話もあるかと思いますが。多分「喋りかけたことがない人に挨拶する」というようなこと。特に、高校生の皆さんは、地域で知らない大人もいるかと思いますが、そういうところからつながろうとしてみるという、皆さん1人1人の努力みたいなところも大事なのかと思いました。

それでは、ご登壇された皆様ありがとうございます。

ここまで「稼げるまち」「彩りあるまち」「安らぐまち」について色々な視点からお話をいただきました。最後に、竹内市長から全体を通じたところでお話を伺えればと思います。よろしくをお願いします。

武内市長：

おそらく「稼げるまち」というのはこのような稼ぎ方があるのではないかと、こういうところをもっとやればいいのか。「彩りあるまち」と言ってもコンセプトはそうだけでも、こんなところに光を当てたら面白いとか。「安らぐまち」これはもう一番規模が大きいですから、ここは見落とさないでとか、こういうところが安らぎの中で大事だとか、実際に中身を見ていただきながら、ここが足りないとか、ここはもっと力を入れてとかいうのを、皆さんで、パブリックコメントの中でご意見をいただければ、それもどんどん入れていきたいと思いません。

ただ、北九州市は、「生きがい」と「本物」があるまちだと、私は思っています。どんどん年を重ねていく上で、色んな地域のつながりや活動、それから日々の生活で親しむ文化活動、そういったつながり、そういうものがこれだけ残っていて、これだけ可能性がある大都市というのは、日本の中にはもうないと私は確信しているので、そういった生きがいをどんどん持てるまちにしていきたいと思いません。

あと、やはり「本物」があります。歴史がしっかりある。技術がしっかりある。そして、本気で関わってくれる人、本気でつくろうとしてくれている企業がある、そういった本物がある。そこが私は大きな魅力だと思います。そういった部分でまちづくり全体のイメージをさらに膨らまして、磨いていきたいと思いません。

進行（丸川氏）：

武内市長、ありがとうございました。以上でパネルトークは終了となります。パネリストの皆様どうもありがとうございました。

### 3. 質疑応答

進行（丸川氏）：

それでは残った時間があと5分あるかないか位ですけれども、会場の皆さんに、先ほどスライドというのを使って意見をくださいとご案内していましたが、今手元に皆さんからのご質問が64件来ています。大変たくさん、ありがとうございます。時間がなく、全部に答えられるわけではないのですが、時間の限りやっていきたいと思っております。

この会場にいらっしゃる方でしたら、是非直接マイクでご質問いただければと思っております。これを書いた方に手を挙げていただきたいです。「様々な商品開発を行っています。私たちは販売活動を積極的にしていきたいのですが、「稼げるまち」になったらどんな未来が待っていますか？」高校生の方です。ありがとうございます。

会場：

こんにちは。私たちは、今、様々な商品開発を行っていて、販売活動を積極的にしていきたいのですが、「稼げるまち」になったらどんな未来が待っていますか。

進行（丸川氏）：

という質問です。高校生から「稼げるまち」の質問がきました。

武内市長：

商品開発をされているのは、何の商品開発ですか。

会場：

今、トマトサブレの開発を行っています。

武内市長：

先日お持ちいただいたアレですね。美味しかったです。

「稼げるまち」になったら、もっと多くのチャンス、商品開発をして稼げるまちになると、多くの方がやってくるようになり、「こういう商品が必要」「こういう商品が好きだ」とか「こういうタイプが好きだ」という方が増えてきて、商品開発の幅がどんどん広がって、商品を作っていく、販売していくという分野について言っても、もっと多くのチャレンジや、製品のラインナップを多くするということができますと思います。

そうするとさらに稼げて、またそれが色々なチャンスを広げてくれて、やはり稼ぐとか、経済活動というのはどんどん好循環、良い方向に回っていくと、どんどん規模が大きくなって、さらに活動ができるという、車がそっちに回り始めると、どんどん色々なチャレンジやチャンスが広がってくると思います。

もちろん「稼げる」が「稼げる」を生むだけではなくて、稼げることによって、色々な文化活動だとか、まちづくりに回せるお金が増えていくとかか、色々な良いお店、欲しいお店がどんどん入ってきてくれる、そういうところに色々な人生の選択肢、買物の選択肢、楽しむための場所や、可能性というのが広がってくる、そのような循環を回していくということだと思いますので、そこを目指してまいりましょう。

進行（丸川氏）：

質問ありがとうございました。

もうほぼ時間がないのですが、せっかく67件もいただいているので、もう1個だけ行きたいと思います。「北九州市が目指すビジョンについて、私たち若者に求めているものは何ですか？」と書いていただいた方いらっしゃいますか。他に「若者と関わるために行政はどんな取り組みをしているのでしょうか、2040年を目標としている理由についてもご説明をお願いします」ということです。

会場：

今、北九州市が目指すビジョンについて、色々語ってくださったと思うのですが、その中で老若男女問わず、色々な世代の方の協力が必要だと思うのですが、その中で私たち若者に求めているものが何かあればお願いします。

武内市長：

ありがとうございます。

じゃんじゃん意見を放り込んでもらいたい。これはビジョンを作る中でも是非お願いしたいと思います。若い方の場合、若いからというわけでもないですが、色々な経験とか、今までのやり方を知らないとか、経験してないという強みを生かしてもらいたいと思います。そもそも、ずっとこれまでやってきたこともあるけれども、自分たちの感覚からしたらこうした方が面白いといった、そのようなアイデアを放り込んでいただけたらと思います。

若い方と「ミライ・トーク」をやった時に、若い方々に言われて、なるほどと思ったことの1つに、北九州市の魅力って何だという話を、若い人たちが語っている中で「ごちゃごちゃ感」というのをすごく言われました。綺麗なまちとか、色々なことが便利なまち、スムーズなまちではなくて、北九州市にはごちゃごちゃしている部分があって、そのごちゃごちゃ感がすごく北九州市の味になっていくと思うので、そこを生かせるアジト感、あるいは人の行き来が色々ある人肌感、体温が感じられる、そういったところが良いですというようなご意見もいただいたことがあって、そこは若い人たちも応援してくれているのだと思ったことがあります。

そのように、どんどん周りに忖度や警戒をせずに意見をいただければと思います。

進行（丸川氏）：

あの時、市長からは「波風を立ててほしい」というようなことも発言もあったような気がしていて、やはり意見を放り込んで波風をとということですね。

武内市長：

新しいチャレンジや、こういうことをしようと言っても、経験や知識があるということは、「いや、それはこういう問題点がある」「いや、これはなかなか難しい」とか「いや、それは無理じゃないか」と経験があるほどそのように考えてしまうというのが人間にはあります。若い人たちはそこが良い意味でないので、どんどんそれをやってみようとか、まずはやってみましょうよと、波風を立てるようなチャレンジ、意見をいただきたいと思います。

進行（丸川氏）：

大変申し訳ないのですが、お時間となってしまいましたので、会場からのご質問はここまでとさせていただきます。

武内市長：

頂いたご意見は、しっかりお受けさせていただいて、参考にさせていただきたいと思いません。

進行（丸川）：

多くの質問をいただきましてありがとうございました。

以上